涼しい夏を過ごしてほしい

町建設協会がボランティアで草刈り作業

早朝からていねいに川岸の草を刈る会員ら

地域に貢献しようと、７月17日、町建設協会（田中新市会長）が、ボランティアで板井原川や鵜の池湖畔の草刈りをしました。

今年は、町内６社から24人が参加。おしどり荘から祇園橋まで約５００㍍の両岸などの雑草をていねいに刈りました。また、この日は、鵜の池マラソン大会のコース整備にも12人が参加し、汗を流しました。

田中会長は「景観のすばらしい水辺で涼しい夏を過ごしてもらおうと心を込めて作業しました。これからも続け、地域に貢献していきたいです」と話していました。

同協会は、町内の建設業６社の集まりで、地域の美化に役立とうと、平成８年から、毎年この時期に草刈りなどのボランティア活動をしています。

アユはスイカの香り

保育所でアユつかみ

アユをつかみ大喜びの園児たち

魚とのふれあいを通して川に親しんでもらおうと、７月29日、アユつかみが、町内保育所で開かれました。

根雨保育所では、根雨水産振興会（生田正明会長）が３５０匹のアユをプールに放し、根雨・日野保育所の園児がいっしょになり、元気なアユを夢中で追いかけました。

また、黒坂保育所では、黒坂水産振興組合（頭本尚憲組合長）が企画。園児たちは、アユつかみを楽しみました。

園児たちは「アユは、ツルツルしてスイカの香りがした」「楽しかった。またやりたい」などと話していました。

新鮮な野菜や特産品など大好評

日野郡内の朝市などが合同で出店「とれとれ朝市・ひの」

郡内の地産地消や観光を宣伝しようと、７月21日、日野郡の合同朝市「とれとれ朝市・ひの」が、ＪＲ米子駅前のだんだん広場（米子市）で開かれました。

この朝市は、日野郡内の朝市など７団体が合同で出店。郡広域観光推進協議会（勝瀬節雄会長）が初めて企画しました。

開会式では、勝瀬会長が「この機会を縁に、日野郡に来ていただきたい。そして、歴史や文化も合わせて見てほしい」と話しました。

町内からは、ニコニコ市（ＪＡ女性部）やまちづくり日野、日野高校チャレンジショップが出店し、トマトやナスなどの新鮮な野菜や花の苗、金持酒などの特産品を販売しました。

午前８時半の開店と同時に多くの人々が会場を訪れ、両手に袋を抱えながら商品を買い求めていました。

朝市テントには開店と同時に多くの買い物客が訪れる

今回、出店したニコニコ市の遠藤初枝さん（榎市）は「日野町の新鮮な野菜を町外の人にも味わってほしい。これからも積極的に情報発信していきたい」と抱負を話していました。